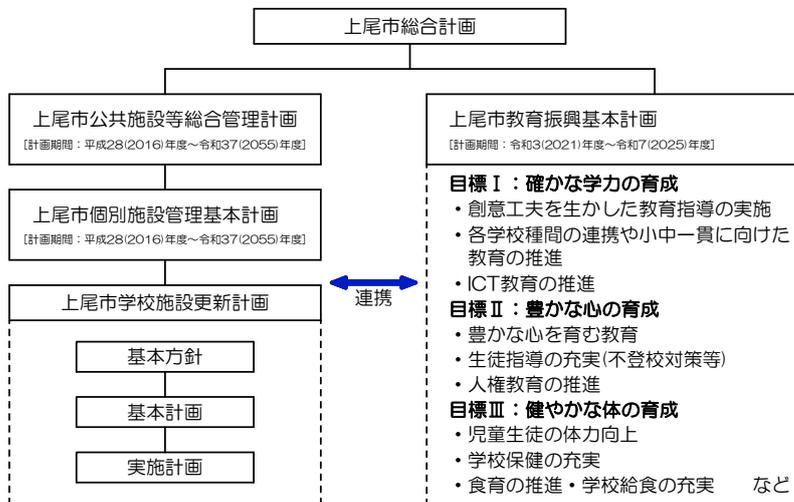


1.上尾市の計画方針

上尾市では上尾市教育振興基本計画を定めており、『夢を育み、未来を創る、上尾の教育』を基本理念に上尾市学校施設更新計画基本計画を策定しております。

上尾市教育振興基本計画では、ソフト面とハード面の目標を掲げ教育行政を推進するとともに、この目標と連携する形で上尾市学校施設更新計画を定め、市を挙げて老朽化の進む学校施設の更新を進めているところでございます。

- ソフト面：教育内容の充実、いじめ対策、家庭や地域との連携強化 など
- ハード面：学校施設の整備、ICT環境の整備 快適な学習環境づくり など



2.計画のコンセプト

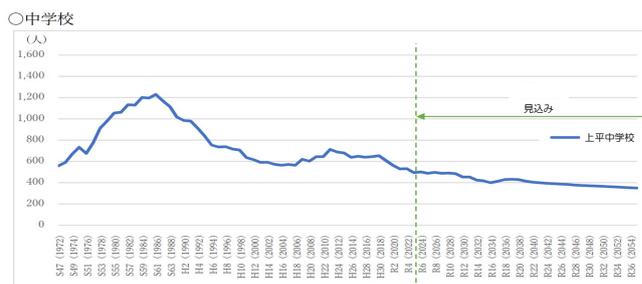
学校施設更新計画では、持続可能な教育環境づくりをコンセプトに3つの方向性を掲げております。



- 方向性1 新しい時代の学びにふさわしい学校づくり〈教育環境の整備方針〉
- 方向性2 子どもたちの学びに望ましい学校規模の維持〈学校規模の適正化方針〉
- 方向性3 計画的・効率的な学校施設の更新〈学校施設の更新方針〉

3.人口

上尾市では児童生徒数が減少しており、高位、長期ビジョン、実態全てで、右肩下がりとなる推計となっております。上平中学校の生徒数は、昭和61（1986）年をピークに平成23（2011）年頃から減少傾向となっており、令和37（2055）年頃には400人程度と見込まれ、およそ1学年4学級、全体で12学級になることが想定されます。



図表 2-14 上平地区 生徒数推移と見込み（1972～2055年）

4.建物

建物について、1970年代に建てられた棟は建築後50年を超えており、表のように老朽が進行している状況です。

加えて、ICT教育の推進により、一人一台端末を用いた授業への転換など、大きく教育の行われ方が変化している状況でもあります。

そこで、児童生徒の推移推計や建物劣化状況、教育の変化に鑑み、学校施設の更新をおこなうにあたっての基本的な考えを示した学校施設更新計画を策定し、現在その推進をスタートいたしました。

※構造欄の「RC」は鉄筋コンクリート造、「SRC」は鉄骨鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造を表す。
※着色部分(桃色)は建築年数40年以上の建物を示す。

【上平中学校】建物基本情報				
建物名	構造	延床面積 (㎡)	建築年	築年数 (年)
北校舎西	RC	687	S40(1965)	60
北校舎東	RC	1,398	S48(1973)	52
管理・南校舎東	RC	3,493	S52(1977)	48
南校舎西	RC	1,122	S56(1981)	44
体育館	SRC+S	762	S44(1969)	56
格技場	S	436	H2(1990)	35
給食室	RC	143	S52(1977)	48

5.施設整備の4つのキーワード

配置計画の際には、どの計画もこの4つのキーワードを軸に検討をおこなっております。

安全・安心な学校

①学校施設の更新による安全・安心な教育環境の確保

取組

- ・建物を支える柱などの劣化状況調査

健全性・安全性
有 ↓ 無
延命利用 ↓ 建替え

②避難所としての学校施設の活用

取組

- ・セキュリティの確保
- ・動線計画、ゾーニングの検討

災害時、学校施設を地域住民に開放

安全・安心な教育環境、地域コミュニティの拠点（イメージ）
地域の避難所としての防災機能の強化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

新しい学びに対応した学校

①新しい学びに対応した教育環境・設備を備えた学校への改築

取組

- ・変化に対応する柔軟性・可変性のある施設整備
- ・多様な学習活動を展開できる教室空間を検討
- ・設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開、教室環境の充実
- ・教職員の働き方改革を推進し、校務等の能率を最大化するための執務空間を検討
- ・インクルーシブ教育システムの構築

多様な学習活動を展開できる教室空間（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

地域に開かれた学校

①学校と地域が連携・協働していくための空間整備

取組

- ・明瞭なゾーニングや、死角を作らない空間配置など、防犯の視点から検討

地域コミュニティの拠点として開放

②地域コミュニティ拠点となる施設の複合化

取組

- ・防犯対策や配置計画、空間構成に配慮し検討

公民館や図書館などの社会教育施設との複合化や共有化

木材を利用し温かみのあるリビング空間
多様な活動ができる空調設備のある体育館（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

快適な学校

①空調設備の充実や脱炭素社会の実現に向けた環境整備

取組

- ・空調設備の充実
- ・省エネルギーや再生可能エネルギーの導入

②学校を利用する全ての人に配慮した環境整備

取組

- ・ユニバーサルデザインの採用
- ・バリアフリー化

利用者全てに優しい学校施設

太陽光発電設備を導入し環境教育に活用（イメージ）
学校施設の木質化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

6.スケジュール

新体育館の完成までの流れは次のとおりとなります。

全体設計 R6～7年

- ・拡張用地も含めて配置を計画します。
- ・新体育館以外も含めた理想的な建物配置、建替え手順、建物仕様などを作成します。

個別設計 R8年

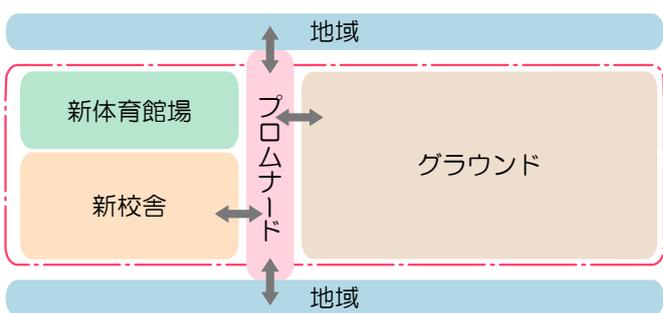
- ・全体設計を基に新体育館を建設するための設計図書を作成します。機能性やデザイン性などの観点から、より詳細にまとめます。

工事 R9年～

- ・安全性に配慮した工事を実施します。
- ・生徒動線から離れた工事エリアを設定し生徒の安全を確保します。

7.これからの学校づくり

上平中学校では『「学び」と「地域」をつなぐプロムナード』をコンセプトに配置計画をおこなっております。プロムナード（散歩道）で緩やかに学校と地域を結びます。



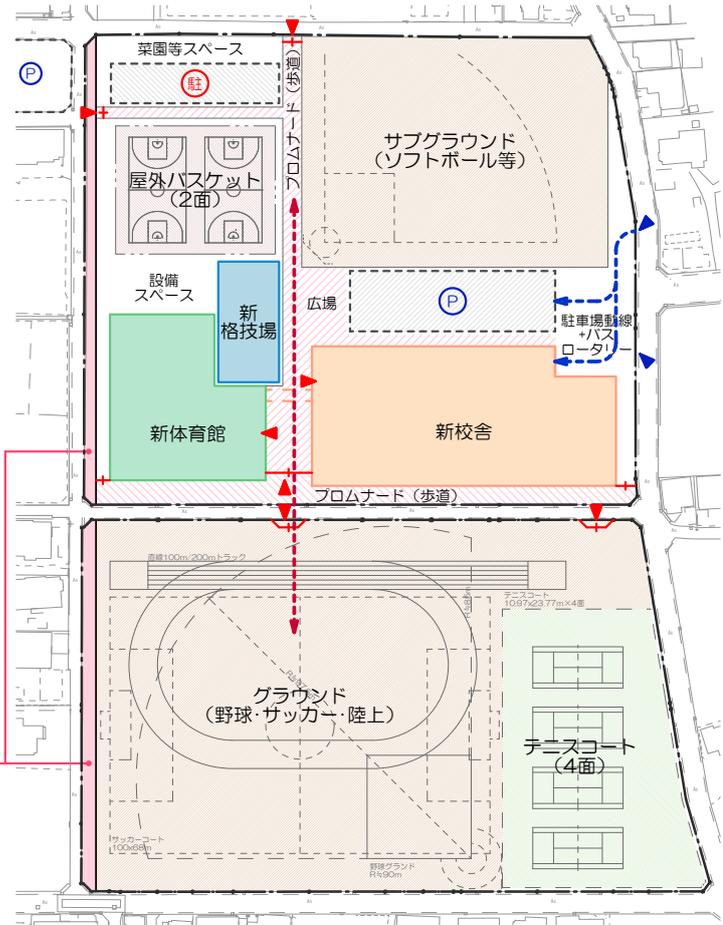
配置検討 (A案)

■配置計画の完成イメージ

-凡例-

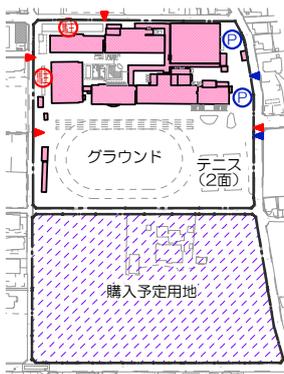
- : 新体育館
- : 新校舎
- : 新格技場
- ▶ : 主な生徒・歩行者出入口
- - -▶ : 校舎から各施設への生徒動線
- 駐 : 駐輪場
- ▶ : 車両出入口
- - -▶ : 車両動線
- P : 駐車場
- : 既存校舎等
- : 主たる工事エリア

※道路拡幅のうえ
歩道状空地2m程度を整備

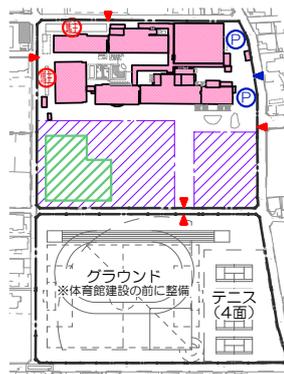


■工事ステップの概要 (予定)

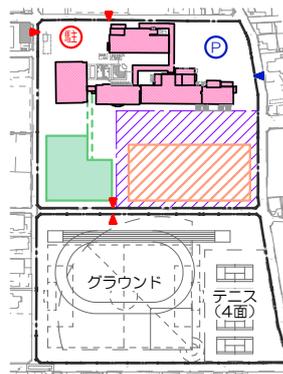
①現況



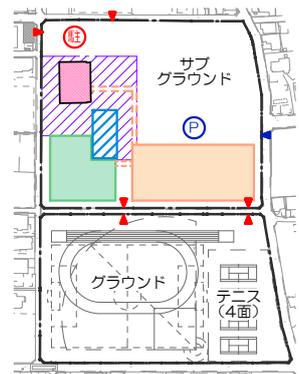
②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

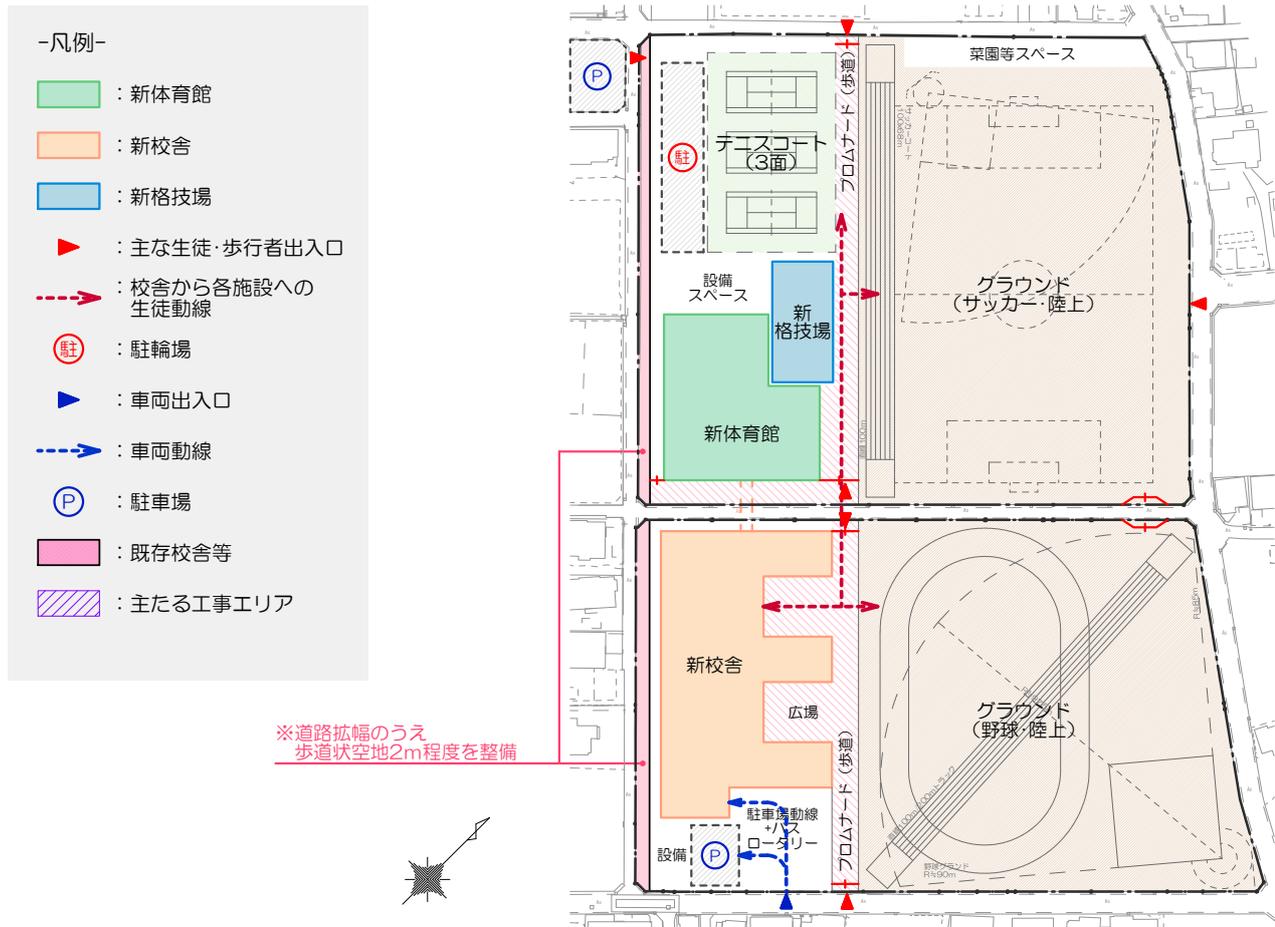
- 校舎が東西に長い配置のため、全体的に日当たりがよい。
- 校舎と体育館が同一敷地にあり、隣接するため行き来しやすい。
- 敷地全体の中心に校舎があり各施設へのアクセスが容易。
- 校舎北側に十分な駐車場を確保できる。
- グラウンドの工事回数が1回で済む。
- テニスコートを4面整備できる。

<懸念点>

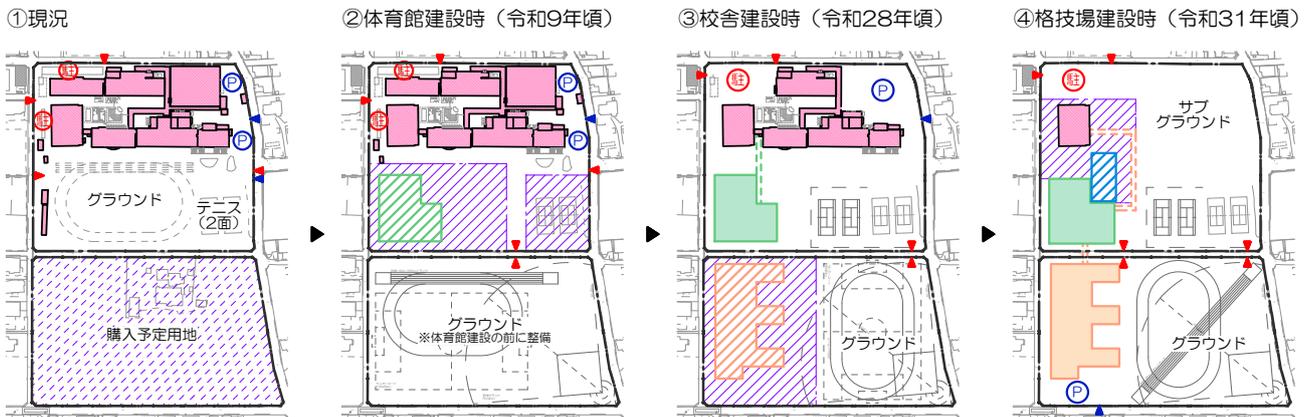
- グラウンドが2つできるが校舎により分断される。
野球とサッカーの試合を同時に開催することができない。
- 新校舎を建設する時に既存校舎からグラウンドへの経路が狭あいになる。

配置検討 (B案)

■配置計画の完成イメージ



■工事ステップの概要 (予定)



■計画の特徴

<良い点>

- 南北に連続したグラウンドを確保でき、サッカーと野球の試合が同時に開催できる。
- 将来的に校舎東側へ連続するかたちで増築・拡張が可能。

<懸念点>

- 校舎棟から北側施設へのアクセスに距離が生じる。
- 教室が西側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。
- 格技場完成までに3回に渡ってグラウンド整備する必要があり、生徒が十分な広さのグラウンドを使えない期間がある。

配置検討 (C案)

■配置計画の完成イメージ

-凡例-

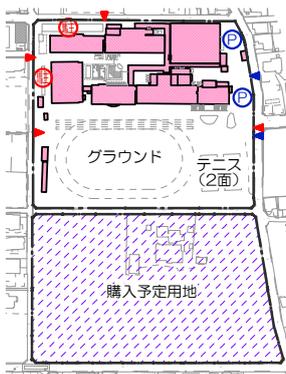
- : 新体育館
- : 新校舎
- : 新格技場
- : 主な生徒・歩行者出入口
- : 校舎から各施設への生徒動線
- 駐 : 駐輪場
- : 車両出入口
- : 車両動線
- P : 駐車場
- : 既存校舎等
- : 主たる工事エリア

※道路拡幅のうえ
歩道状空地2m程度を整備

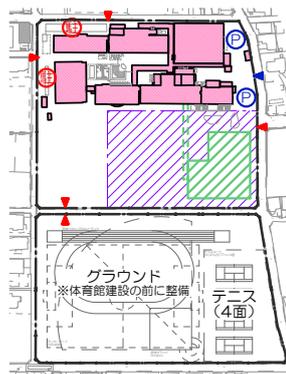


■工事ステップの概要 (予定)

①現況



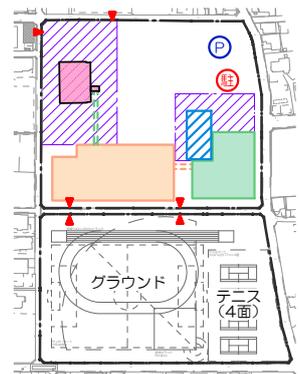
②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

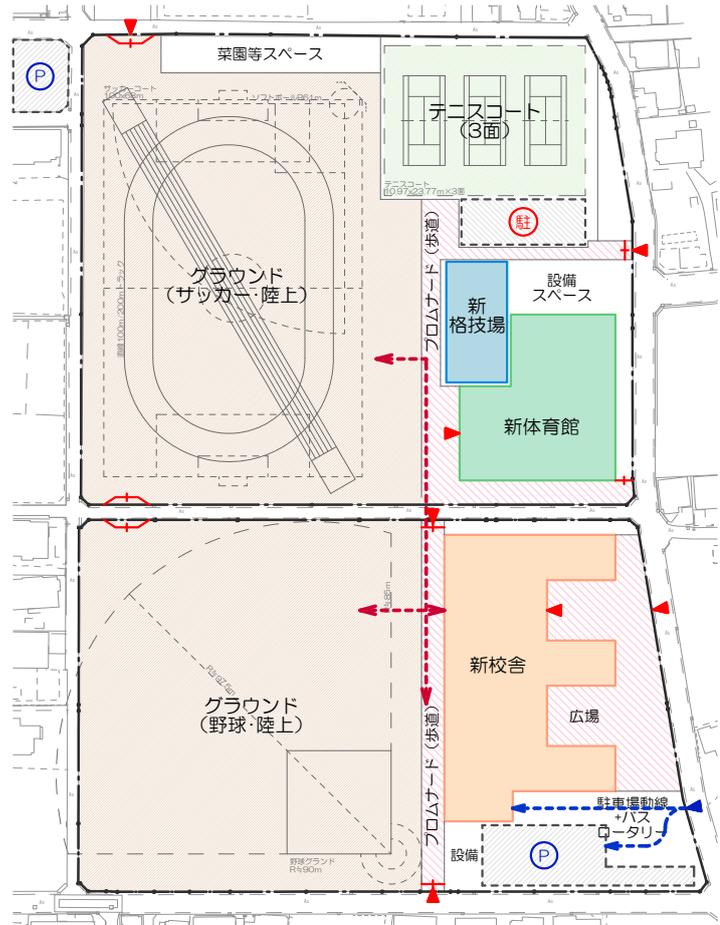
- 校舎が東西に長い配置のため、全体的に日当たりがよい。
- 校舎と体育館が同一敷地にあり、隣接するため、行き来しやすい。
- 敷地全体の中心に校舎があり各施設へのアクセスが容易。
- 校舎北側に十分な駐車場を確保できる。
- テニスコートを4面整備できる。

<懸念点>

- 敷地内で給食車両と生徒の動線が交わる。
- 校舎により、グラウンドが南北で分断される。
野球とサッカーの試合を同時に開催することができない。
- 敷地内に駐車場は設けられるが、接道条件により校舎から離れた位置となる。車いす駐車場から校舎まで距離がある。
- 新校舎を建設する時に既存校舎からグラウンドへの経路が狭あいになる。

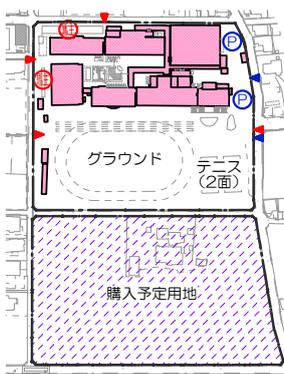
配置検討 (D案)

■配置計画の完成イメージ

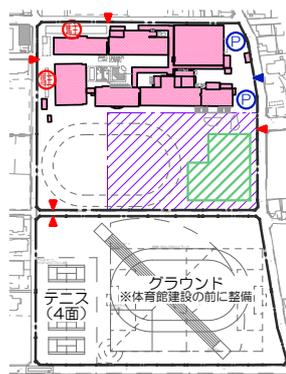


■工事ステップの概要 (予定)

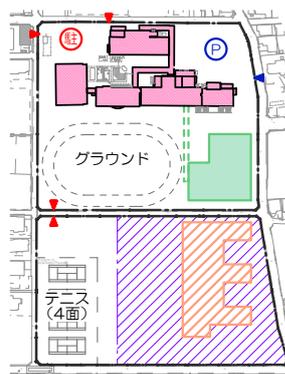
①現況



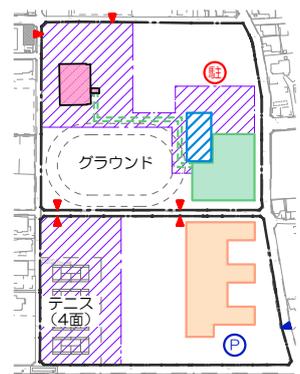
②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

- 南北に連続したグラウンドを確保でき、サッカーと野球の試合が同時に可能。
- 将来的に校舎西側へ連続するかたちで増築・拡張が可能。

<懸念点>

- 新校舎建設から既存格技場を解体するまでの間、グラウンド面積を満足に確保できないため、野球及びサッカーの試合は実施できない。(想定工期5年間程度)
- 既存校舎解体から新格技場が完成するまでの長期間、既存格技場までの動線距離が長くなる。(想定工期2年半程度)
- 校舎棟から北側施設へのアクセスに距離が生じる。
- 教室が東側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。